『実践活動報告書』

西６　田中千代（えひめ JASL）

１.課題『オンラインでの地域日本語学習支援が可能な人材の確保、育成』を設定した理由・背景

愛媛県では日本語指導者（ボランティア含む）の老齢化が進み、しかも指導者の所在地が限られている。また、県内にあった日本語教師養成講座は大学も含めなくなってしまい、有資格者の発掘が厳しい状況である。

愛媛県の在住外国人は技能実習生が圧倒的に多く、県内各地に散在している。地域の日本語学習支援体制を地域別にみると、東予、中予は日本語ボランティア教室も一定数存在する一方、島嶼部、南予は、地域をつなぐ公共交通機関にも乏しく、外国人生活者が散在しているため、日本語教室空白地帯となっている。南予は、日本語教育機関はもとより、大学等の高等教育機関もないため、日本語教育に関わる人材の面でも他地域よりも不利な環境と言える。地域の地理的な条件にあう学習環境の整備の一環として、オンラインによる日本語学習支援は有効であると考えられる。しかしながら現状として、オンラインでの日本語学習支援が可能な人材の確保は厳しいものがある。オンラインクラスの場合、指導者はパソソコンの操作、デジタルリテラシー能力が求められるため、ここ数年オンライン指導者は数名に固定化され、居住地が松山市に固まっている。当事業では、昨年から新規若手を育成しようと、知人に声を掛けて、昨年は１名の新規人材を確保したが、口コミにも限界があり、本年は公募とした。新規応募者は１名という厳しい状況であったが、１名でも応募してくれたことに感謝し、大切な人材を育てていこうというの思いだった。将来的には、各地に在住する指導者が地域の日本語学習リーダーとなり、地域に根ざした日本語学習につながってほしいという希望があるが、まずは、オンラインによる日本語学習支援ができる人材の育成、人材確保は危急の問題だ。

２．実施した取組について

2022 年 7 月	・講師募集（公募）
2022 年 8 月 9 月	・講師間の協議（指導項目、内容の選定等） ・受講者募集・オリエンテーション（国際交流協会）
2022 年 10 月	・応募者（新人）模擬授業 ・外国人のための生活の日本語教室（オンライン）前期開始
2022 年 11 月	・新人授業見学 ・授業振り返り
2022 年 12 月	・外国人のための生活の日本語教室（オンライン）前期終了 ・講師間振り返り会議（対面） ・受講者アンケート（授業内容、地域情報をどのような媒体で得るか、クラスの頻度や実施時間など）
2023 年 1 月	・外国人のための生活の日本語教室（オンライン）後期開始
2023 年 2 月	・新人授業見学 ・授業振り返り
2023 年 3 月	・外国人のための生活の日本語教室（オンライン）後期終了 ・講師間振り返り ・受講者アンケート（授業内容、地域情報をどのような媒体で得るか、クラスの頻度や実施時間など） ・今後について検討会

３．　講師の日本語指導歴等及び採用の理由

愛媛県国際交流協会では、３年前よりオンラインによる地域日本語学習を開始し、Ａ（コーディネーター）．Ｅは国際交流協会からの声掛けにより、当初から指導を開始した。Ｂは昨年、国際交流協会が声掛けを行ったが、新たな人材を求めて、Ａが以前の同僚であるＤに声掛をかけた。本年、さらに新たな人材を確保したいとの意向で公募を行い応募してきたのがＦである。未経験であるとのことだったが、オンラインでの模擬授業を行った結果、育成の可能性があると思い採用した。Ｃには、不足する人材の確保のため、以前ともに仕事をしたことがあるＡが声掛けをした。Ｃ、Ｄに声を掛けた意図としては、将来的に各地に在住する指導者が、地域の日本語教育のリーダーとなって、教育人材の育成、学習の場の核となって、地域に根ざした日本語学習につながってほしいという希望があってのことであった。

４．『生活の日本語』オンライン教室について

・目　的：　在住外国人が県内で生活する際や仕事をする上で必要となる基礎的な日本語のコミュニケーションを身につけるため、地域の生活に密着した場面で簡単に使える日本語の機会を提供する。また、地理的、時間的な要因で日本語教室に通えない外国人に配慮しオンライン上で実施することとする。

・期　間：（前期）令和４年 10 月 8 日（土）から 12 月 24 日（土）まで
（後期）令和５年１月７日（土）から３月 25 日（土）まで
土曜日 19：30 から 21：00 まで（90 分・休憩時間を含む）
２クラス、隔週で開催

・クラス：WEB 会議システム ZOOM
＊講座は講師自宅より、オンラインで実施
＊使用するライセンスは、愛媛県国際交流協会のプロライセンス

・内容等：『いろどり　生活の日本語』をベースとしたテーマ別日本語学習を提供する。
初級１クラス：『いろどり　生活の日本語』初級１＋関連漢字
初級２クラス：『いろどり　生活の日本語』初級２＋関連漢字

・講　師：コーディネーター：１名、日本語教師６名
＊コーディネーターは日本語教師を兼務する。
＊授業は各クラス１名の講師が携わり、チームティーチングとする

５．前期振り返り

・参加者：開催曜日、時間、開催時間については概ね良いとの意見が多かったが、隔週では少なく、つい忘れてしまうという。また、６回では少ないとの意見もあった。

・講　師：前期の改正点を検討し、後期に反映させる。受講者が回を重ねるごとに減少していく点について、クラス１は様々な職種の参加者で、目立った減少はなかったが、クラス２はほぼ実習生で、仕事の多忙さから 11 月末からの２回はゼロという状況だったのは残念。隔週で忘れらたのではないか、毎週だったら参加のチャンスが増えたのではないかという意見があった。

６．本年度、新人講師育成について

新人講師とは、メールのやり取りを頻繁に行い、講師全員参加の模擬授業も行った。教室前にはパワーポイントの最終確認を行い、授業に挑んでもらった。さらに、授業後には、動画を見て振り返りを行った。全講師とは、12 月末、前期終了後に初めての対面会議を行った。初期の会議の際は年齢差、経験差もあり、お互いへの遠慮もあったが、対面会議の際は、新人講師も含め、初対面と思えない様子で、みんなが気軽に相談、提案ができるチームになっていたように思う。

７．コーディネーターとして

様々なバックグラウンドを持つメンバーで構成されているので、同じフィールドに立つこと、マンパワーをいかに活かすか、担当講師の役割を分担し、共に教室を運営していくという自覚を持ってもらうことを意識して行った。会議もほぼオンラインなので、孤立させない講師関係を築くことに心がけ、教室が終わる度に声かけをし、チームの一員であることを意識づけ、来期にもつなげていくよう心がけた。

８．来年度に向けて

・後期終了時の受講者へのアンケート、講師間の振り返りを来年度に反映させ、内容を充実させたい。
・早めの講師募集（現状６名から８名）を行い、育成時間を作る。講師を増やすことで、毎週２クラス同時開催を目指しつつも、月３回とし、担当者の負担を軽減したい。
・講師外で、ITC の補助を活用するか検討。
・企業や組合からの実習生の申込み、出席について、対策を考えたい。